

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 高度専門職業人を目指す要求に対応したカリキュラムを作成する。	→「教育学研究科の教育課程を継続的に検討する委員会の有無と検討状況」「必要な授業科目数の増加」「大学院の科目における授業形態に関する調査」	C	C	/	/	/
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 教育課程は、学生が高度な専門的知識を身に付けると共に、実践的力量を強化するよう編成されているが、これをさらに充実させるため、研究演習(ゼミ)を増設し、学生が各々の興味・関心にそったゼミ選択ができるよう、研究科委員会で前期課程研究演習指導教員8名と後期課程指導教員2名の任用人事を行い、承認された。また、幼稚園教諭の専修免許のための教職に関する科目の中に「子ども家庭福祉学特殊講義」を増設することを決定した。研究科の教育課程を継続的に検討する特別な委員会は設置していないが、月に1度開催される研究科委員会で、カリキュラム上の課題があれば、検討するようにしている。しかし、授業科目の適切性や教育課程の編成について、十分に検証するまでには至っていない。
小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 臨床教育学領域と幼児教育学領域の2領域別に、科目担当者間で教育内容の検討が行われているが、研究科全体の教育課程の実施方針に基づいた教育内容の検証を行うまでには至っていない。
その他	

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	研究科全体の教育課程に関する問題意識の共有
★小項目6.2.2	研究科委員会メンバー間での、教育内容に関する問題意識の共有
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	研究科委員会で、現行カリキュラムに関する課題を出し合い、教科目の適切性や編成上の課題等、教育課程を継続的に検討する体制づくりを行う。また、広報委員会と協力して、ホームページ上に、教育課程の編成をわかりやすく示す考えである。
★小項目6.2.2	学期の終わりなど、年度内に1~2回、研究演習の授業内容に関する教員同士の情報交換の場を設ける。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「改善方策」の早急な実施が望まれます。

【学内委員】

○適切に点検評価が行われています。

○「授業科目の適切性や教育課程の編成について、十分に検証するまでには至っていない。」とのことですが、十分に検証する方法を検討の上、実施が必要です。

○本項目は、検討経緯や結果を説明するのではなく、授業科目を適切に開設し教育課程を体系的に編成しているか、各課程に相応しい教育内容を提供しているか、について聞いています。従って、要素や大学基準協会の留意すべき事項などを参照され、このような視点での現状の説明が求められます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》6.2.1を下記のように修正。

(説明)教育課程は、学生が高度な専門的知識を身に付けると共に、実践的力量を強化するようコースワークとリサーチワークに分けて体系的に編成されているが、研究演習(ゼミ)を増設し、学生が各々の興味・関心にそったゼミ選択ができるよう、リサーチワークの部分の充実を図った。また、幼稚園教諭の専修免許のための教職に関する科目の中に「子ども家庭福祉学特殊講義」を増設することによって、コースワークの選択肢を広げている。